

Before
After

道しるべ

道徳通信

上尾市立太平中学校
道徳通信 第1号
令和5年5月12日(金)
発行者 校長 井浦 博史

なまえのないねこ

校長 井浦 博史

太平中学校の学校図書館にはたくさんの本があります。学習の資料、将来のことを考えることができる本、スポーツや音楽など趣味を伸ばせる本、ドキドキ・ハラハラする本、そして心をあたたくしてくれる本。今年の道徳通信では、私の心が温かくなった絵本を一冊紹介したいと思います。昨年度は犬のお話でしたので、今年度はねこのお話です。

「なまえのないねこ」文章は竹下文子さん、絵は町田尚子さん、株式会社小峰書店から発行されている絵本です。この絵本の特徴として、まず表紙がとても可愛いのです。ねこ好き、動物好きならば、つい、手に取ってしまう絵本でしょう。表紙には、みどり色の目をした「きじとらねこ」が描かれております。このきじとらねこが物語の主人公です。

「ぼくはねこ。 なまえのない ねこ。」 から物語は始まります。誰にも名前を付けてもらったことがないねこ。それでも小さいときは「こねこ」とよばれていたそうです。でも、大きくなってからはただの「ねこ」だそうです。「ねこ」は町中を散歩し、いろいろなネコたちに出会います。

くつやさんのネコはレオ、本屋さんのネコは元気のげんた、お店の人気者でげんちゃんと声をかけられるそうです。このほかにもやおやさん、おそばやさん、パン屋さんのネコたちとも会いますが、みんな名前を持っています。きっさてんのネコはなんと2つも名前を持っていました。そうこうしているうちに「ねこ」はお寺のネコのじゅげむと話を始めます。「ねこ」はじゅげむに名前が欲しいと相談しました。じゅげむは、自分で好きな名前を付けたいと提案します。「ねこ」は町中を歩きながら、自分の好きな名前を考えます。かんぱん、じてんしゃ、やじるし……。なかなかこれといった名前がないようで、なかなか決まりません。ときには「のらねこ」と言われじゃまもの扱いをされたときもありました。町中を歩いているうちに、雨が降り出しました。なかなか雨はやみません。「ねこ」の心の中は雨の音で一杯になってしまいます。雨宿りをするために公園のベンチの下で体を縮めていた「ねこ」は、小さな女の子に声をかけられます。「どうしたの おなかがすいたの」と……。 「ねこ」は、不思議そうな顔で女の子を見つめます。女の子は「きみはきれいなメロン色の目をしているね」「おいでメロン」。

女の子とおかあさんと「メロン」は雨の中を仲よさそうに歩いて行きました。

「なまえのないねこ」は、Webでも紹介されたことがあるようで、知っている人も多いかもしれません。この物語を読むと心が温かくなります。何度読んでも心が温かくなります。どうしてだろうと考えました。それはきっと、「ねこ」は物語の「ねこ」ではなく、私自身のことなんだろうなあと感じました。優しさとか、幸せとか、嬉しいとかってどういうことなのか、きっと誰かと触れあうこと、誰かに自分の存在を理解してもらっていること、一人じゃないってことが、きっと幸せということなのでしょう。私はこれからも誰かの名前を呼ぶでしょう。そして誰かから名前を呼ばれることでしょう。そうして、人の優しさを毎日感じていくのでしょうか。「なまえのないねこ」は。優しさって一人じゃないってことなのかなと思わせてくれるとても素敵な絵本だと思います。



